

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市太白障害者福祉センター	
2 指定管理者	社会福祉法人仙台市障害者福祉協会	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 7,794人(前年度比 113.4%) ・令和4年度 6,873人(前年度比 123.5%) ・令和3年度 5,567人(前年度比 107.2%)	
	《事業》 ○貸館事業:障害者の自主的な活動及び障害者の福祉に関する市民の自発的活動のための施設の提供その他の援助 ○障害者の福祉に関する講習会の開催その他福祉に関する啓発活動 ○障害者福祉センターの運営管理	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 29,731千円 (27,788千円) ・ その他市が負担した費用 385千円 (11,132千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 令和5年12月にアンケートを実施。	

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	<p>協定書及び仕様書に則った管理運営がなされている。センターの事業推進については、館内法人との打合せを行い、条例や運営要領、基本方針等の共有理解を図っている。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、例年行っていた行事の中止を余儀なくされたが、代替の行事を開催し、障害福祉の理解・啓発に努めた。</p>	27/27
II 施設の運営管理体制	<p>個人情報や情報セキュリティ、事故防止対策への取組みなど、研修やマニュアル作成等により職員への周知を図っており、適切な運営が行われている。</p> <p>また、災害発生時に備え、職員の行動マニュアル策定や、避難訓練を実施しており、近隣施設や地域との連携にも努めている。</p>	30/30
III 施設・設備の維持管理	<p>清掃委託業者のみならず、職員も保守点検チェックシートに基づき、定期的に館内を巡回し、利用者が安全かつ快適に利用できる環境を維持する取組みが行われている。</p> <p>また、仙台市環境行動計画を基に節電、節水、ごみの減量等に取り組むなど環境に配慮した取り組みを進めている。</p>	24/24
IV サービスの質の向上	<p>全職員を対象にしたマナーアップに関する研修を開催し、利用者に対する接客マナーの向上に努めている。利用者アンケートでも全ての項目において平均4点(満足)以上と高い評価を得ており、アンケートの内容に対しては対応策を含めた回答を利用者へ向け掲示している。</p>	28/28
V 施設固有の基準	<p>日常的に敷地内の点字ブロックや通路等を点検し、利用者にとって利用しやすくなるよう、施設の維持管理を行っている。</p> <p>講座等の募集時、町内会の回覧板や市政だよりを含め、広く周知している。また講習会や啓発活動を行った後は、毎回アンケートを実施し、障害の有無に関わらず幅広く障害福祉の普及に向けて企画できるよう、ニーズの把握に努めている。</p>	9/9

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）による自己評価》
<p>利用者本位で実現性の高い事業計画では、余暇活動・障害者スポーツを計7回、障害者週間には利用者作品展、コンサート、創作教室を実施して延べ約290名に余暇活動の充実や障害理解促進に取り組んだ。貸館利用者の利便性向上として、2部屋にWi-Fi環境を導入した。</p> <p>地域、関係団体・機関との関わり方や取り組みでは、太白区民祭りに出展して、来場者594名に障害理解普及啓発に取り組んだ。福祉避難所や災害時要援護者避難の情報交換を民生委員・児童委員と実施し、連携強化に努めた。郡山地域包括支援センターから出前講座の依頼を受けて、当センターの専門職が運動教室を通じて地域リハビリテーションの活性化に取り組んだ。当センター祭りは、隣接する関係機関と協働し、当事者9団体、ボランティア6名にご協力をいただき、来場者168名に地域交流及び障害理解促進に取り組んだ。当該祭りを土曜日に開催することで、当センター・宮城野・若林センターの利用者、児童館の児童が企画の1つであるポッチャ大会を通じて交流することが出来た。</p> <p>その他、施設の管理運営の方針に沿った取り組みでは、小学生1校16名の福祉学習、中学生2校6名の職場体験を受け入れ、障害理解促進に取り組んだ。</p> <p>地域防災力の強化に係る取り組みでは、上級救命講習、仙台市シェイクアウト訓練、福祉避難所開設訓練、人工呼吸器装着児者の電源確保訓練を行い、避難者の受け入れ体制を強化した。令和5年9月6日仙台市内の土砂災害警戒区域に高齢者等避難が発令された際には、職員2名が当センターに待機し、避難受け入れ態勢を整えた。</p> <p>人材確保及び育成では、貸館事務員は、障害者が就労の機会を得ることができるよう主としてフルタイム・週5日勤務の困難な障害当事者の雇用を継続した。</p> <p>次年度においても、障害者福祉の地域拠点機能を担い、災害時には福祉避難所を運営できるよう役割を果たしていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設内の他法人との連携を図りながら、協定書及び仕様書に基づいた適切な施設の管理運営がなされている。</p> <p>センター内にとどまらず、町内会や民生委員、近隣学校と連絡調整を行ったり、適宜アンケート等で希望等を把握しながら、地域住民を広く対象とした各種講座やイベントの開催を継続して行なう等、障害者福祉の普及啓発に努めている点で、施設の設置目的を果たしていると評価できる。</p> <p>また、洪水発生を想定した垂直避難訓練や福祉避難所開設訓練、人工呼吸器装着児者の電源確保のための一時避難受入れの確認など、災害時発生時の体制の構築を図っている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局障害福祉部障害者支援課